



## 農林中央金庫グループの 活動状況

当金庫グループでは、さまざまな取組みを通じて、  
よりよい環境・住みやすい地域・豊かな社会づくりに  
貢献しています。



# 農林中央金庫のCSR取組方針

日本の農林水産業のために。私たちの活動は、会員とともにあります。

## 農林中央金庫の基本的使命

農林水産業協同組織の中央機関としての機能発揮に努めます。

当金庫は、1923年(大正12年)に「産業組合中央金庫」として設立され、1943年(昭和18年)に名称を「農林中央金庫」に改めました。現在は「農林中央金庫法」を根拠法とし、各地域の協同組合と都道府県段階の連合会(信農連、信漁連、県森連など)を会員(出資団体)とする協同組織の中央機関として活動しております。農林中央金庫法第一条の「目的」には、「会員に金融の円滑化を図ることにより農林水産業の発展に寄与し、国民経済の発展に資すること」が基本的な使命として定められています。

この使命を果たすため、当金庫は、JA・JF(漁協)が組合員利用者のみなさまからお預かりした貯金を原資とする会員からの預金などにより調達した資金をもとに、会員、農林水産業者、農林水産業に関連する企業、および地方公共団体などへの貸出を行っています。

また、会員が保有する資金の最終的な運用の担い手として、国内外で多様な投融資を行い、資金の効率的運用を図り、会員への安定的な収益還元を努めております。

さらに、信用事業(金融事業)を営む全国のJA・JFの事業企画、健全な経営の維持、国内有数の規模である共通業務システムの運営等に関しては、都道府県および全国段階の連合会と連携し、「JAバンク」・「JFマリンバンク」の名のもとで一体的な運営を行っています。

## 農林中央金庫のCSR取組方針

業務全般を通じて会員の事業・活動をサポートし、農林水産業のフィールドで現場の声にこたえながら、会員と協調・連携したCSR活動を行ってまいります。

当金庫は、農林水産業の協同組織を基盤とする金融機関として、またグローバルな投融資活動を行う金融機関として、多様なステークホルダーの信頼を得て、経済・

社会の持続的な発展に貢献していくことをCSR活動の基本としています。取組みにあたっては、「法令等遵守の徹底など強固な内部管理態勢」と「多様な人材が活躍できる人事施策」をすべての信頼の基盤とし、業務全般を通じた、①会員への貢献、②農林水産業振興への貢献、および、③社会への貢献、を3つの柱としております。

近年は、自然環境の保全、食品の安全性、そして地域経済・社会の活性化など、わが国が抱える重要なテーマについて、企業が果たすべき責任もさらに重みを増しています。

私たち協同組織は「相互扶助」と「共生」を基本理念に掲げ、農林水産業と地域をフィールドとし、その振興と発展を事業の目的としてまいりました。その現場では、従来から会員を中心として、農林水産業者や地域社会に対する多様かつきめ細かい事業や活動が展開されています。当金庫のCSR活動は、これをサポートするかたちで、「現場の声」にこたえながら、会員と協調し、相互に連携した取組みを中心に進めてまいります。

なお、平成21年度からの新たな経営戦略として策定した「経営安定化計画」においては、会員等と連携した農林水産金融の一層の強化などと併せて、CSR活動を通じた農林水産業・環境への貢献事業の継続・強化の方針を掲げております。

また、当金庫の役割を十全に果たしてゆくための人材育成策として、JAや都道府県連合会などとの交流人事を活発化しています。

## CSR活動の推進体制

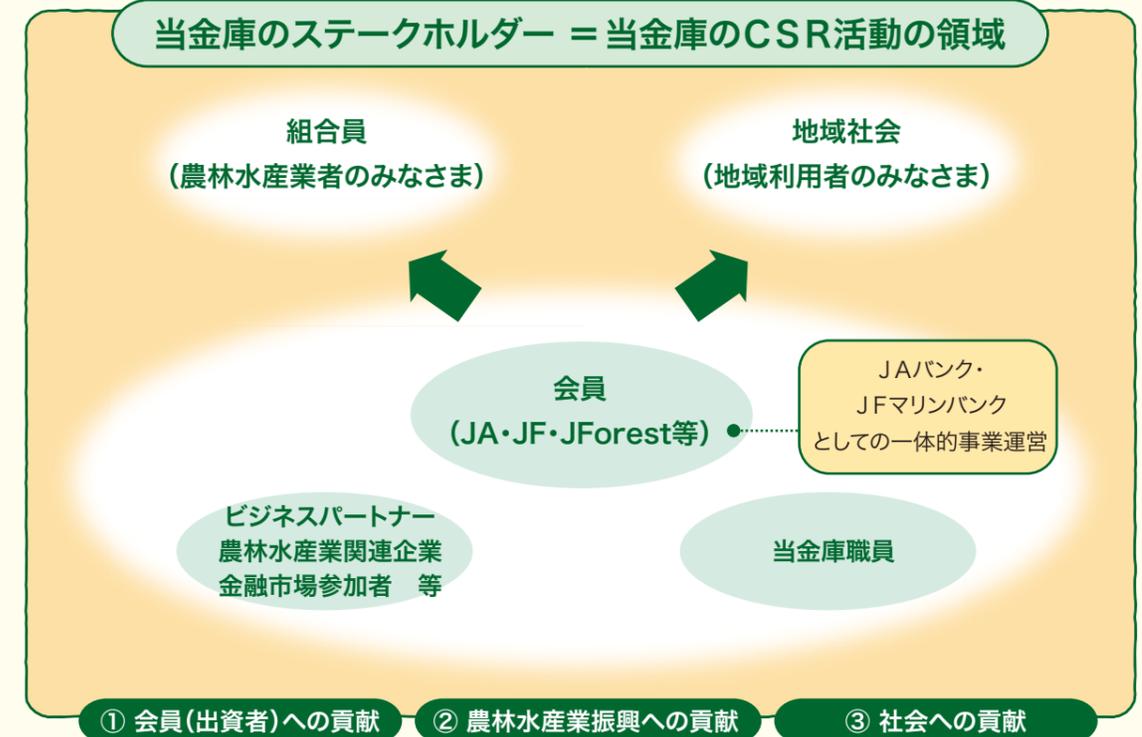
ステークホルダーのみなさまの期待におこたえするため、CSRを推進する体制の整備に努めています。

当金庫では、平成20年に理事会の下部機関としての「CSR委員会」、また、CSR活動全般を統括する機能を担う「CSR推進室」を設置するなど、体制の強化を図ってまいりました。

## 農林中央金庫のCSR概念図

【基本的使命の遂行による社会全体の持続的な発展への貢献】

基本的使命＝農林水産業の発展への寄与



会員・現場と連携したCSR活動

## 農林中央金庫

【ステークホルダーからの信頼の基盤】

- 法令等遵守の徹底など強固な内部管理態勢の構築
- 多様な人材が活躍できる人事施策

JA等との人材交流の活発化

当金庫のCSR取組方針は、CSR委員会での協議を経て理事会で決定されます。その方針に基づき、個別の活動を所管する部署が会員等との調整を行い、CSR推進室と連携しながら活動しています。また、個別事業の運営に関しては、学識経験者や専門家の方々の運営委員

会等へのご参加を得て、適切な運営に努めています。

なお、本報告書は、CSR推進室が中心となり作成・発行しております。今後とも情報発信の充実に努め、みなさまとのコミュニケーションの充実に努めてまいります。

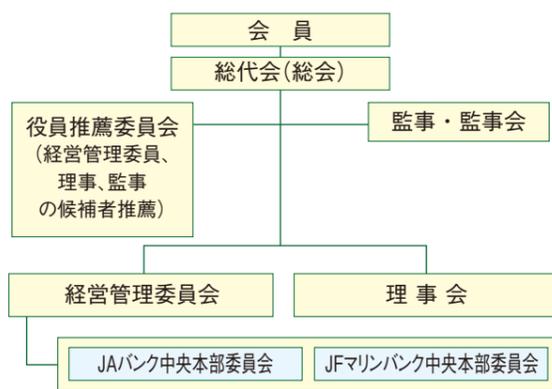
社会に信頼される金融機関であり続けるために、  
経営管理態勢の強化に不断の取組みを続けます。

## 経営体制（コーポレートガバナンス）

系統信用事業を支える基本的使命と国内有数の金融機関としての社会的責任を果たす基盤であるコーポレートガバナンスの強化に努めています。

当金庫は、農林水産業者の協同組織の全国金融機関であると同時に、グローバルな投融資活動を行う金融機関としての側面をあわせ有しています。これを受けて、当金庫の意思決定は、会員総会に代わって会員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を遵守しつつ、農林中央金庫法に定められた「経営管理委員会」と「理事会」が協同組織の内外の諸情勢を踏まえ、分担・連携する体制としています。

農林中央金庫の経営体制

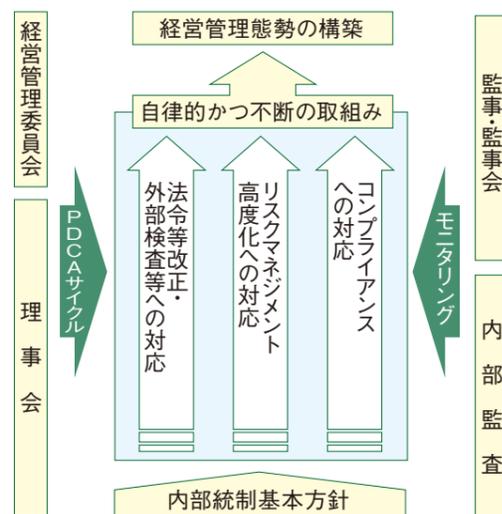


## 内部統制強化への取組み

経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付け、内部統制強化に向けた不断の取組みを続けます。

当金庫は、農林水産業者の協同組織を基盤とした金融機関としての基本的使命と社会的責任を果たしていくために、経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付けるとともに、企業倫理および法令などの遵守、適切なリスク管理その他業務執行の適正性を確保するための内部統制に関する基本方針を制定しています。

内部統制強化への取組み



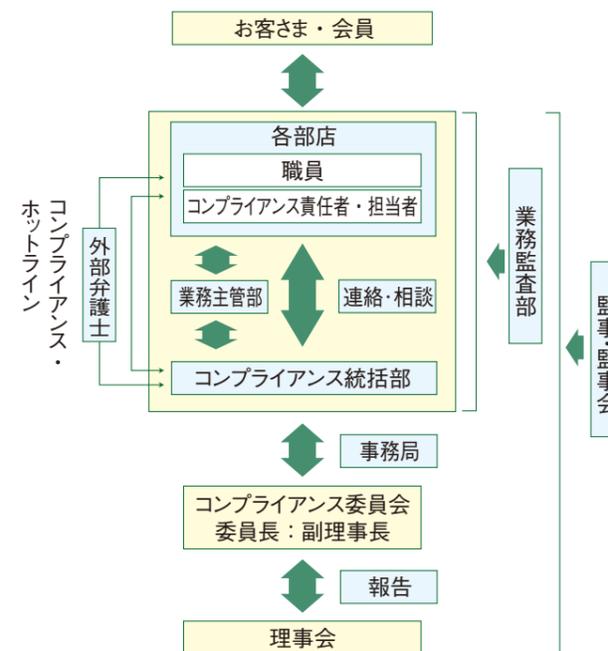
経営体制の詳細な情報は、2010年版ディスクロージャー誌をご参照ください。  
[http://www.nochubank.or.jp/disclosure/pdf/discr\\_10.pdf](http://www.nochubank.or.jp/disclosure/pdf/discr_10.pdf)

## コンプライアンス

コンプライアンス態勢の整備と実効性向上を、重要な経営課題として不断の取組みを続けます。

当金庫は、わが国金融システムの中核を担うグローバルな金融機関として、また系統信用事業の全国金融機関として、その基本的使命と社会的責任を果たし、社会情勢や経営環境の変化を踏まえ、お客さまや会員からの信頼にこたえるために、徹底した自己責任原則のもとで法令遵守等社会的規範に則った業務運営を行うとともに、ディスクロージャー（情報公開）とアカウントビリティ（説明責任）を重視し透明性を確保するよう努めることにより、コンプライアンスへの不断の取組みを積み重ねています。

コンプライアンス運営態勢

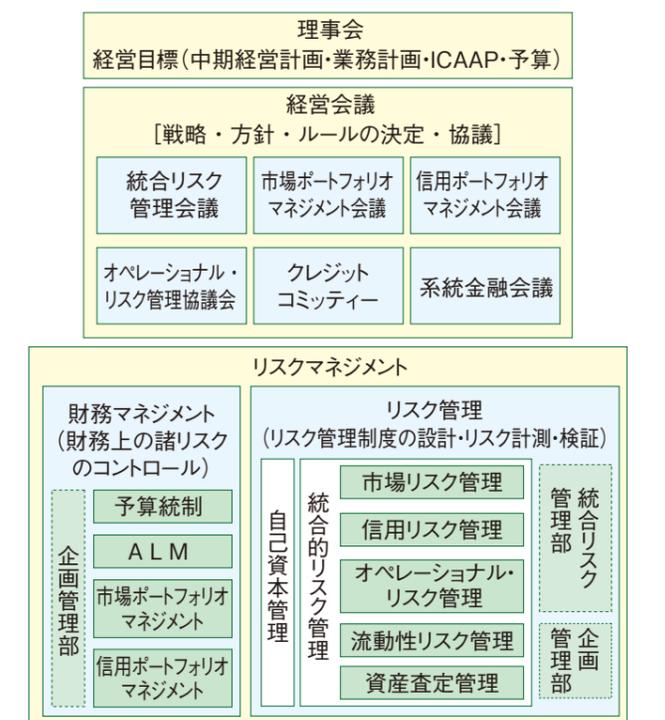


## リスク管理

農林漁業系統の協同組合の全国金融機関として、収益や機能面での還元と盤石な財務基盤を構築するため、リスク管理体制の高度化に努めます。

当金庫は、認識すべきリスクの種類や管理のための体制・手法などリスク管理の基本的な体系を定めた「リスクマネジメント基本方針」を制定し、業務を運営するなかで直面するリスクの重要性評価を行い、管理対象とするリスクを特定したうえで、各リスクの特性を踏まえた個別の管理を行うとともに、これらのリスクを計量化手法を用いて総体的に把握し、経営体力と比較して管理する統合的リスク管理を行っています。

リスク管理体制



## 人材育成

経営環境の変化に柔軟に対応するチャレンジ精神に溢れた中核人材の育成を目指し、職員一人ひとりの自主的な取組みを支援しています。

当金庫は、人材育成にも力を入れています。業務目標の設定や成果の検証、仕事上で発揮された能力の振り返りといったプロセスを繰り返すことによって、職員の業績貢献や能力開発に対する意識・取組みの向上を図り、豊富な研修メニューでサポートを行っています。うち、新入職員には約2週間のJA現地研修を実施し、「現場からの学習」を促しています。さらに、系統団体などから有識者を招聘した研修会を行うとともに、若手・中堅職員を中心にJA・信農連ほか系統団体との人的交流を強化しています。

### 主な人材育成プログラム

#### 集合研修

- ・キャリア開発研修:能力の棚卸・自己分析を通じてキャリア開発意識を醸成
- ・マネジメント研修:リーダーシップ、部下育成、効率的な業務処理等のマネジメントに必要な知識の習得・向上
- ・ビジネススキル研修:コーチング、ネゴシエーション、7つの習慣等のビジネススキルの習得・向上
- ・企業診断研修:企業経営にかかる基礎理論の理解とスクーリングによる実践を通じたコンサルティング能力の向上・定着

#### 自己啓発支援

- ・通信研修、外部資格取得、外国語学校通学助成制度:職員の自律的なキャリア開発の支援として、各種取組みにかかる費用の一部を助成

#### 外部派遣

- ・海外留学:MBA・LL.Mプログラムを通じた専門知識の習得
- ・海外トレーニー:海外支店における各種実務(証券業務・融資業務システム)を通じたグローバル人材の養成
- ・異業種交流型研修、運用会社、JA・信農連等への派遣・出向を通じた人材交流、専門知識の習得

#### 新人教育

- ・新入職員職場教育制度、指導係研修
- ・受入研修、JA現地研修

#### その他

- ・業後研修、土曜セミナー
- ・系統関係者による講演、職員勉強会を通じた系統組織の一員としての意識醸成
- ・eラーニング

## JA 現地研修 (研修先: JA 会津いいでに学ぶ)

### JA 会津いいで(福島県) 現地研修全日程

- 1日目 **JA本店・支店** JA概況説明、本店・支店巡回
- ↓
- 2日目 **金融部・共済部** 概況説明、渉外同行
- ↓
- 3日目 **支店** 窓口、渉外
- ↓
- 4日目 **農業実習** 花卉の摘花作業、米の苗箱片付け
- ↓
- 5日目 **営農部・経済部** 関連施設視察
- ↓
- 6日目 **営農部・経済部** 直売所視察
- ↓
- 7日目 **農業実習** アスパラ収穫、ビニールハウス内整備
- ↓
- 8日目 **支店** 窓口、イベント視察
- ↓
- 9日目 **農業実習** 牛のブラッシング、柿の摘果作業
- ↓
- 10日目 **金融部** 概況説明、現場視察
- ↓
- 11日目 **JA本店** 葬祭会館視察、報告会

### JA研修全日程を終えた感想

JAが多くの組合員から支持される理由は、JA職員の熱心な姿勢にあると感じました。組合員一人ひとりの生活のため、体力的にも厳しいなか、組合員からの多種多様なニーズにこたえようと努力する渉外担当の方々の姿には頭が下がる思いでした。こうした姿勢は、今後もJAが支持を得ていくために重要であると感じました。

また、農業実習では、農家のみなさまへの感謝の気持ちを再認識した経験となりました。実習は8月初旬という炎天下のなか、どの作業も悲鳴を上げるようなものばかりであり、私たち消費者が、手軽に食べ物を手にできるのは、農家のみなさまのお陰と強く感じました。

農林中金が扱う資金は、農家のみなさまの汗と、JA職員の熱心さの結晶であるということ、この研修を通じて実体験できたことは、今後、金庫職員として仕事をしていくうえで、自分自身の柱となる貴重な経験となりました。研修を通じて出会ったJA職員、そして組合員のみなさまの期待にこたえられるよう、日々、業務に励んでいきたいと思っております。



会津みらさし柿の摘果作業



福島支店  
農林水産環境事業班  
おうみ つかさ

## 人的交流の強化

JA・信農連ほか系統団体と当金庫での人的交流を従来以上に充実させ、相互理解の促進とJAノウハウ共有化・人材育成に努めています。

## 農中 → JA・信農連・県中央会

### JA・信農連・県中央会への出向

当金庫の基盤である系統信用事業の現場を肌で感じ、協同組織中央機関職員としての自覚を一層高めることを目的に、受入れ先の協力を得て当金庫職員の系統団体(JA・信農連・県中央会)への出向を充実させています。



JAの取組みのサポートを通じて地域・農業に貢献していきたい。

JAの総合事業は本当に幅が広く奥が深いです。

現場の工夫・苦勞の体験、新たな出会い。この貴重な機会を大切にしたい。

系統信用事業の原点を肌で感じる毎日です。

地域・人と密接につながり、総合事業を行うJAの業務運営の意義と難しさ、こうしたJAをサポートする事業連の努力・苦勞を再認識しています。

JAの組織運営の難しさを実感しています。

JA・信農連からのトレーニー・出向の受入れ

当金庫は、JA・信農連からのトレーニー・出向の受入れにも力を入れています。

JAにおける信用事業の推進企画・推進指導業務の中核を担う人材の育成を目的とした「JA信用事業企画・実践研修」によるJAからのトレーニーや、リテール企画・事務統一企画・制度対応・農業融資・法人融資・有価証券運用といったさまざまな業務で信農連職員の受入れを進めているほか、JAバンクの全国統一システムであるJASTEMシステムを担う農中情報システム(株)でも多数の人材を受け入れ、システムの安定運営に取り組んでいます。

JA  
↓  
農中



JA新あきた  
金一哉  
(研修先:  
JAバンク企画推進部  
ローングループ)

JAトレーニーとして在籍する以前、農林中央金庫の印象は、主に商品の開発・企画をしているというただ漠然としたものでした。農林中金に出向して2カ月、ローン企画を担当するなか、各県からの要望や環境の違いを勘案しつつ、JAとして全国統一した商品を開発・企画することの難しさを日々痛感しております。また、ローンに関する実績集計・情報収集等を行いながら、全国的な動きを拝見させていただいており、大変貴重な経験と感じております。研修期間は残り4カ月程ですが、ひとつでも多くのことを吸収し、自らのJAでの推進活動に役立てたいと思っております。JAからのトレーニー受入れについては、人材育成・交流のために、今後も継続していただきたいと思っております。



JA岡山  
千葉博之  
(研修先:  
JAバンク企画推進部  
金融サービスグループ)

出向当初は、私がこれまでJAで行ってきた渉外・営業(信用・共済複合渉外)とは異なる点が多く、まるで別世界に来たように感じました。しかし、研修が始まると、農林中央金庫の職員、各県信連からの出向者、JAトレーニーのみなさんとの意見交換を通じ、同じJAバンクグループとして全国のJAのため、JA組合員・利用者のために「何が必要で、何が大切か。何ができるか」を日々考え業務にあたられており、これは、JAにおける渉外活動と変わらないと感じるようになりました。このJAトレーニー制度は、農林中金の業務を経験できるほか、全国のさまざまなJAとの交流から、自JAの課題や必要な取組みを考える機会となりました。そして何より、全国JAバンクグループに人的ネットワークを構築できるこの制度は、とても意義深く感じております。



JAあおば  
谷口優  
(研修先:  
JAバンク企画推進部  
生活メイキンググループ)

「人材育成」が重要であると従来から考えていたところ、まさにJA信用事業の「人材育成」を担う部署に配属され、日々問題意識を持って学んでおります。強く感じたのは、JAで悩んでいることは、県域・全国でも同じ目線で悩んでいるということ。JAの業務は、「人」が担うものです。それをどうやってより良い方向へ進めるかは、どのJAにとっても大きな課題であり、全国段階でも真剣に取り組んでいる方たちを見て、大変心強く感じました。JAにおける課題は決して少なくありませんが、JA・県域・全国が協力しあうことで、必ず解決策は見つかるものと感じております。半年間という限られた期間ですが、この研修が私自身にとって、そして所属するJAにとって有益なものとなるよう、さまざまなことを吸収したいと思っております。

信農連  
↓  
農中

JAバンクの  
リテール企画業務

JAバンクが掲げる「生活メインバンク機能の強化」に向け、貯金・年金・給与振込・JAカード・JAバンク



ローンといった全国のJAバンクが取り扱うさまざまな商品・サービスにかかる企画・推進業務を担当しています。

JAバンクの  
事務統一にかかる  
推進・企画業務

JAバンクにかかる全国統一事務手続の整備や、その円滑な導入・定着に向けた県域取組支援策の企画を担当しています。



現在、JAバンクの事務手続については、個々のJA・県域ごとに整備されており、これを全国で一元的に対応することによって、JAバンク全体としての効率性向上や内部けん制水準の向上等を目指しています。

JAバンクに関する制度  
対応業務

JAバンクの業務にかかる法規制・会計制度等について、さまざまな環境変化のもと、適切な対応が行われるよう、制度全般に関する



とりまとめを行う役割を担い、特に最近では、利用者保護に関する対応に力を入れています。

また、JAバンクが一体的業務運営を行っていくための「JAバンク基本方針」も、このチームが担当しています。

農業融資・社会貢献活動の  
企画業務

全国のJAバンクで取り扱う農業融資商品や関連する相談業務の企画、融資獲得に向けた取組みのサポート、さらには、JAバンクとして行う社会貢献活動「JAバンクアグリサポート事業」などの企画を担当しております。



また、当金庫自身の農業融資業務を直接担当する出向者もおり、農業融資業務に関するノウハウの共有も行っています。

JASTEMシステムの開発・運用業務

JAバンクの全国統一システムであるJASTEMシステムの開発・運用や、事務手続の作成、システムユーザーのサポート等を担当しています。JA・信農連で培った現場での実務経験を活かし、より良いサービスの提供に向けた取組みをシステム面から支えています。



法人融資業務

当金庫本・支店で行う法人融資を担当しています。信農連で培われた経験をもとに、当金庫のフィールドで融資業務に携わることにより、ノウハウの共有と蓄積を進めています。



有価証券運用業務(研修  
制度)

当金庫では、信農連を中心とした人材育成の一環として、有価証券運用に関する実践的なトレーニングを行う研修制度を運営しています。



研修は、当金庫グループ内で連携し、講義・模擬ディール・ポートフォリオ分析などを行う実践的な内容となっています。

昭和60年の制度創設以来、これまでに迎えた研修生は500名を超えています。



## 主な社会・環境貢献活動実績 (平成21年度)



花いっぱい運動(札幌支店)



森林組合デーでの下草刈り活動(盛岡支店)



木質ペレットストーブ寄贈(岡山支店)



レイズドベッド贈呈式(大阪支店)



日本野鳥の会イベントポスター(カムリウミスズメ保護コンサート)



早稲田大学寄付講座(北京大学との共同講座)

### 地域・社会貢献活動

#### 「花いっぱい運動」の全国展開

- 33支店・事務所・推進室で地方公共団体、各種学校、老人クラブ等にチューリップ球根、花種を寄贈
- 公園等への花壇寄贈(札幌、盛岡、福島、前橋、高知、鹿児島)
- 花いっぱいコンクール、「おいでませ!山口国体・山口大会花いっぱい運動」、「みやざきフラワーフェスタ」等各地緑化推進活動への協賛

#### 環境美化活動への参加・協力

- 清掃ボランティアへの参加(盛岡、福島、宇都宮、富山、名古屋、鳥取、熊本、鹿児島等)
- 富士山(甲府)、御堂筋(大阪)、長崎市等の環境美化団体・イベントへの寄付

#### 地域振興の支援

- 「おきなわ花と食のフェスティバル」、「ひめじ田楽アート2009」、「ながさき実り・恵みの感謝祭」等、地方公共団体・系統団体の地域振興活動への協賛

#### 社会福祉活動・義援金活動

- 当金庫およびグループ、職員有志による募金協力  
NHK歳末たすけあい・海外たすけあい、日本赤十字社、赤い羽根共同募金、緑の募金
- 災害見舞金(ハイチ地震復興支援など)
- ランドセルカバー寄贈(青森)、防犯ブザー寄贈(高知(協賛))

#### 海外での取組み

- NY支店「農林中金基金」による助成金支出(ジャパン・ソサエティ、環境再生活動、社会的弱者支援活動、メトロポリタン美術館等)
- 学生インターン受入れ(北京、シンガポール)

### 環境・自然保護活動

#### 地球温暖化防止、生物多様性保全活動への協力

- 間伐材の利用促進  
木質ペレットストーブ、木製ベンチ・花壇等の寄贈(岡山、関東業務、盛岡、仙台、宇都宮、大阪、松江)  
「木の名刺を使おう運動」、「FSC認証の紙利用」
- 日本野鳥の会の活動への協力(フリーペーパー『Toriino』の発行支援、記念イベント協賛等)

#### 環境負荷低減に向けた当金庫グループでの活動

- チーム・マイナス6%参加(平成19年度~)
- 省エネルギー対策(改正省エネ法、改正東京都条例対応、クールビズ、ハイブリッド車への切り替え等)
- ペーパーレス化、資源リサイクル推進(両面コピー、廃棄文書の溶解処理等)
- グリーン適合法適合商品購入

### 教育・研究支援活動

#### 大学寄付講座

- 東京大学、早稲田大学、慶応義塾大学、東京理科大学、一橋大学

#### 高校の職場訪問受入れ

- 鹿児島県立鶴丸高等学校(鹿児島)、私立田園調布雙葉高等学校(東京)



## 花いっぱい運動

### 甲府事務所の取組み

当金庫では、地域の緑化推進と街の美化を願って「花いっぱい運動」を全国展開しています。甲府事務所においても、数十年來の歴史ある取組みです。

現在、山梨県市町村教育委員会連合会の協力を得て、県内全公立小学校にチューリップの球根を10月頃に贈呈し、花を通じた情操教育に役立ててもらっています(平成21年度実績 199校に対して29,850球贈呈)。また、花の種の店頭配布や富士山の美化への協力等も行っています。



甲府事務所  
石田 宏美職員 高橋 静樹次長

## 海外での取組み

### ニューヨーク支店の「農林中金基金」



ニューヨーク支店長  
なかむら かずと  
中村 和人

ニューヨーク支店では、支店開設10周年にあたる1994年より、米国企業市民の一員として地域社会に貢献する団体等への助成を行う「農林中金基金」を運営し、昨年度は4団体に寄付を行いました。

そのひとつ、「ニューヨーク再生プロジェクト(NYRP)」は、市内で地域的な事情等により荒廃した公園などの浄化や美化活動等を行う団体です。昨年度に当基金を通じた寄付を再開したご縁もあり、支店職員とその家族も参加して、ハーレム・リバー沿いのスウィンドラー公園で清掃活動を行いました。マンハッタン島の最北部に位置するこの公園は、1990年代後半まで不法投棄が後を絶たず荒れ放題となっていたそうですが、当

### 寄贈先からの声

甲府市立新紺屋小学校 教頭 保坂 あけみ様

本校は、甲府駅近くの市街地に位置する、全校児童160名余りの小規模校です。

敷地が狭いため、花壇は、学習のための植物栽培が中心ですが、職員室前の花壇は、園芸委員会が中心になり花を育てています。毎年農林中央金庫さんよりいただくチューリップの定位置でもあります。今年もきれいな大きなチューリップが咲き、子どもたちの「わあーきれいだね」の声が毎日聞こえてきました。子どもたちに花を育てる優しさ、美しいものへ感動する心をありがとうございました。



生徒とチューリップの花壇の前で

団体の活動により、現在では子どもたちの自然教育の場や地域住民が憩う緑豊かな公園として見事に再生を果たしています。

当日は、川沿いの桜並木の雑草取りや剪定作業を、ボランティア職員の指導を受けながら行いました。公園の景観維持の一助となるとともに、自然環境の再生を目的に、参加者は社会貢献活動への取組み意欲がより向上したようです。そして、この桜並木がワシントンのホトマック河畔のように、桜の名所に育っていくよう願ったことと思います。



スウィンドラー公園の整備風景

大阪支店「レイズドベッド寄贈事業」

県内産の間伐材を利用したレイズドベッドを寄贈

大阪支店では、奈良・和歌山県内の特別支援学校等に31基のレイズドベッド(上げ床花壇)を寄贈しました。寄贈したレイズドベッドは、和歌山県森林組合連合会と奈良県森林組合連合会を通じて製作されたもので、各



レイズドベッド植栽体験の様子

県内産の間伐材を利用しています。寄贈先のみなさまには、木材の持つ温かみと県内産木材の良さを感じていただければと思っています。

和歌山県立紀伊コスモス支援学校  
校長 三反田 和人様

先日は、わたしたちの学校に立派なレイズドベッドを寄贈していただき、ありがとうございました。コスモスという校名に示されるように、学校には季節ごとにたくさんの花が咲き、みんなを楽しませてくれています。これからも、障がいのある子どもたちにも配慮したこのベッドを活用し、みんなの力を合わせて、さらに素敵な学校にしていきたいと思っています。



奈良県立奈良養護学校整肢園分校  
校長 下岡 久志朗様

平成22年3月に、レイズドベッド2基を寄贈していただき、ありがとうございました。先日、子どもたちが花の苗を植えました。生徒や先生方の感想を紹介すると、「車イスに座った状態でも植えることができ、作業がしやすかった」、「子どもたちの目の前で、栽培することができるので、取り組みやすかった」など、とても喜んでます。これからも、子どもたちのために大切に活用させていただきます。



地球温暖化対策に向けた取組み

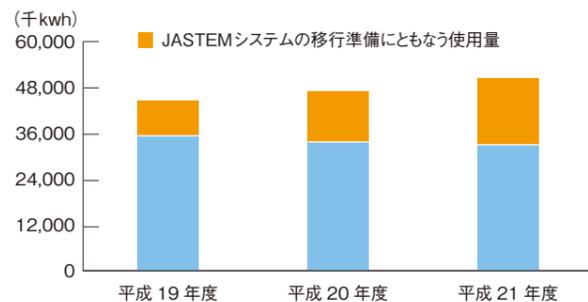
省エネルギー・省資源への取組み

当金庫は、地球温暖化対策への取組みとして「チーム・マイナス6%」に参画しています。季節に応じた空調の設定、営業車のハイブリッド車への切り替え、クールビズ活動など、省エネルギーへの取組みを実践し、改正省エネ法等へも的確に対応しています。

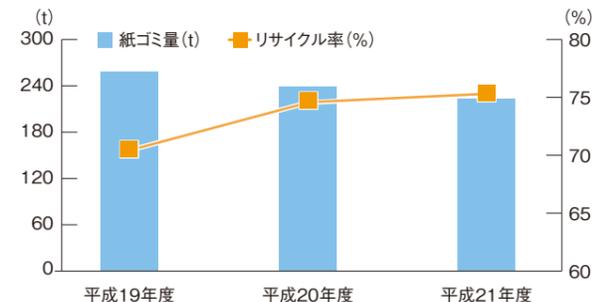


また、両面コピーの原則化や電子メールの活用等による紙使用量削減のほか、リサイクルの促進にも取り組んでいます。今後も、省エネ法や各都道府県条例に適切に対応し、地球温暖化対策に向けた取組みを一層強化していきます。

本店他主要事業所の電力使用量の推移



紙ゴミ量とリサイクル率(DNタワー)



大学への寄付講座開設

大学と連携し、学生たちの教育や研究を支援

当金庫は、農林水産業や金融・投資に関する教育・研究活動に寄与するため、平成20年度より寄付講座の設置に取り組み、国内5大学で7講座を開設しています。

寄付講座には当金庫およびグループの役職員も出講し、次世代を担う若者に対して、当金庫およびグループで蓄積した実務知識・ノウハウを提供しています。

大学名	設置科目	備考
(平成20年度開設)		
早稲田大学(全学部共通) (北京大学)	農山村体験実習 食と経済 日中農業比較研究(注)	(株)農林中金総合研究所との共同設置 (注)早稲田大学と北京大学の共同講座として北京大学で開講
東京大学経済学部	証券投資:理論と実践	
東京理科大学工学部	金融工学	農中情報システム(株)との共同設置
慶応義塾大学大学院 システムマネジメント研究科	デザインプロジェクト「Active・Learning・Program・Sequence」	同研究科の「AGRIゼミ」運営にも協力
(平成21年度開設)		
一橋大学経済学研究科	自然資源経済論	(株)農林中金総合研究所が研究・出講に協力

自然の恵みに基礎を置く地域発展の可能性を考える

一橋大学「自然資源経済論」プロジェクトから

この「自然資源経済論」プロジェクトは、自然資源に依存する農林水産業と地域社会の現代的な意義を再検討し、その持続可能な発展を展望するものです。現地調査などの調査研究と講義を実施しました。

現地調査では、熊本・北海道・広島・島根などの中山間地域や、中国の乾燥地域を訪れました。講義は、社会科学の総合大学である一橋大学らしく、経済学部、法学部、商学部など学部・大学院生約100名が受講しました。農業・資源・環境問題への学生の関心は高く、第一線の専門家による講義に熱心に耳を傾けました。講義には若手研究メンバーの調査成果も盛り込まれています。



講義の風景



北海道知床での森林調査

若手研究メンバーからの声

- 地方自治体の環境政策を研究する私にとって、当寄付講義は地域の具体的な課題に接近する貴重な機会となりました。(経済学研究科リサーチアシスタント 藤井 康平)
- 現地調査で訪れた日本の自然は美しく、魅了され、感動しました。私が育った中国は、かつての日本と同様に、都市・農村それぞれで環境破壊、汚染問題が起きています。日本の経験に学び中国の農業に何が必要かを考えるうえで、この講義は大変有意義でした。(経済学研究科博士課程3年・中国からの留学生 傅 喆)
- 私はかねて地域の問題に関心を持っていましたが、調査で訪れた現場は想像以上に奥が深く、自然資源と地域の豊かさを改めて認識しました。今後研究者として、地域の豊かさを持続させる経済システムのあり方を探求したいと思います。(経済学研究科博士課程1年 吉村 武洋)